



## 『教会はキリストの体、一人一人はその部分』

コリントの信徒への第一の手紙12章27節

日米合同教会は、特にニューヨーク市近郊に住む日本人並びに日本に関心を寄せる人々に、礼拝、交わり、学び、伝道・宣教の業を通してキリストの福音をのべ伝え、キリスト者として共に信仰を深めていくことを目的とする信仰共同体です。

## ◇牧師からのメッセージ◇

**復活の信仰** 皆さんはゴードン・ヒラバヤシという方をご存知でしょうか。社会学者でクエーカー教派に属する敬虔なクリスチャンです。太平洋戦争勃発直後に学生であったゴードンさんは、西海岸に住む日系人を敵国人として収容所に押し込んだ米政府の政策に断固反対したことで知られています。◆1971年にワシントン州シアトルにあるブレイン記念合同メソジスト教会に赴任した私は、そこで初めてゴードンさんのお父さんにお目にかかりました。平林さんは既に癌におかされて起きることもままならぬ状態でした。私は幾度となくお見舞いに伺いましたが、ある日の会話は今でも鮮明に覚えています。◆「平林さんは長い人生を有意義に過ごされて、良かったですね。」と私は言いました。「それを思うと、平安なお気持ちになられることでしょう。」平林さんは答えました。「確かにそうですが、私を最も平安にさせてくれるのは、もうすぐイエス様とお会いできるという希望です」。私はその時の平林さんの安らかな顔が忘れられません。平林さんの信仰は、現在の困難は永遠の命の中で喜びに変えられ、全ての問題に解決が与えられ、神と顔と顔をあわせてまみえることができるという素朴で、力強い確信に満ちたものでした。◆しかし、平林さんにとって、永遠の命への希望は未来にだけ希望を託すという未来一辺倒なものではありませんでした。未来への希望は彼の中で現在を人間らしく堂々と生かすための原動力となっていたのです。つまり、平林さんは、主イエスとまみえるという希望を、現在のこととして既に体験されていたのです。◆私はその時気づきました。彼の平安と安らぎの源はこれだ、と。考えてみるまでもなく、この信仰こそ、復活の信仰に違いありません。何ものにも代え難い私たちへの神の贈り物であるに違いありません。

## ◇日曜礼拝説教より◇

■3月6日「命の水」ヨハネ福音書4章7節-15節 イエスの時代に、サマリア人と呼ばれる人々は汚れた民族として口を聞いてはいけない程、ユダヤ人の嫌悪的になっていました。この迷信を主イエスは断固として否定されました。彼はサマリア人の部落に平気で入っていき、その女性に語りかけ、井戸の水

を飲ませてくれませんかと頼んでいるのです。それに加えてこの女性は5人の男と結婚したことがあり、現在は他の男と同棲している、というのです。サマリア人の価値観から見ても受け入れがたい女性なのです。主イエスの女性に対する自然で開放的な態度にほだされたのでしょうか。女は答えます。「絶対渴くことがないように、その命の水とやらを私にください。」主イエスは答えます。「私がその命の水です。私を信じなさい」。◆命の水、それは無条件で包括的(つまりいかなる人も排除しない)神の恵み、恩寵です。私たちが悔い改める以前に私たちに差し出されている神の赦しの愛です。人間は罪深い存在であるので、神に対して自分を正当化することができるという考えを拒絶されました。この罪の問題は、私たちの意志や努力で克服できるというような生易しいものではありません。神の赦しだけが解決をもたらす、神の赦しなくして私たちは一瞬なりとも生きていくことはできない。これがキリスト教信仰の大前提です。◆この赦しの思想は、キリスト者を現状肯定主義に追い込むでしょうか。赦されているのだから、何もなくていいという怠惰な信仰を生むでしょうか。主イエスを3回も裏切ったペテロに主は、「あなたは私を裏切った。しかし大丈夫だ。私はあなたを裏切らない。私はあなたと共にいる。」この赦しの言葉を心の耳で聞いて、その前にではなく、聞いた後に、ペテロは号泣し、悔い改めたのです。そしてその後20年以上たって、福音を宣べ伝えるためにローマにおもむき、そこで主イエスのために逆さ十字架にかかって殉教します。赦されているからこそ他者を赦そうという、寛容で、いかなることがあっても他者の人間性を否定しないという決意が生まれてくるのです。

■3月20日「私の助けはどこから来るのか」詩篇121篇 私たちの愛する祖国日本は、マグニチュード9.0の大地震に襲われ、その直後高さ15メートルに及ぶ津波が何千人の犠牲者を呑み込み、原子炉の部分的メルトダウンという最悪の事態に直面しています。◆このような大惨事にぶつかった時、神を信じる人々の心をよぎるのは、神の沈黙ということ。神は何故何もなさらないのだろうか。何故天から神の声が響き渡らないのか。神は私たちのことを心にかけてくださっているのか。私たちが苦しんでいるのをご存知なのか。聖書は、そのような疑問を投げかけることは神への冒瀆だとは言っていません。何故なら、聖書は苦難に臨んで神の沈黙に抗議する声を大切にしているからです。◆一つの例を挙げます。詩編22編は、次のように苦しい心の中を神に訴えています。「わが神、わが神、何故あなたは私から遠く離れておられるのですか。私のうめきの声に耳をかたむけてくださらないのですか」。同時に聖書は私たちに、人間のロジックや理性を満足させる答えを期待してはならないと忠告します。「ああ、そうか。成る程ね。それなら分かった。」というような簡単な答えを期待してはならないと言うのです。確かに聖書の中で、神は決して問題のない人生、バラ色の人生を約束されていませ

# 日米合同教会月報69巻2011年4月号

ん。◆そしてもう一つ、聖書は人間が有限な存在であることを指摘して止みません。私たちは神ではなく人間である以上、永久に分らないことがたくさんあるのです。何故このような大惨事が起こらなければならないのか、という疑問はその一つです。私たち人間は何故という問いに答えなしで生きていかなければならないのです。◆しかし聖書は、苦しみや苦難といかに戦ったらいのかという問いには明確に答えています。詩編121編は大切なヒントを与えてくれます。「目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。わたしの助けは来る。天地を造られた主のもとから。あなたがいで立つのも帰るのも、主が見守ってください。今日も明日もとこしえに」。私たちはこの大惨事にいかに向き当てたらいいのか。主が私たちの苦しみを共にしてくださいが故に、主が私たちの汗も涙も痛みも知り尽くしておられるが故に、勇気を持って、希望を持って。助け合え、分かち合え。共に祈れ。これが詩編の私たちへのメッセージです。◆有限な私たちは永遠の命についていろいろ詮索することは許されていません。しかし確かなことが一つあります。それは、神は彼らを見捨てられることはない、ということです。私たちの想像もつかない素晴らしい形で、彼らを抱き入れてくださるということです。神は生きている者にとっても、死んだ者にとっても慈しみの神であります。◆神は私たちを心にかけてくださっているのでしょうか。勿論です。神は私たちが苦しんでいるのを確かにご存知です。神は生きている者も、死んだ者も必ず愛し、慈しまれます。この確信こそが勇気の源です。私たちが生きる上でのやぐらです。私たちを支える岩です。希望です。

## ◇教会の建物修理◇

**建物修復委員会報告** 委員会は3月15日・27日に会合を持ちました。多くの方がこの修復プロジェクトに関心を持ち、新たに委員会に参加しています。この中で、プロジェクトが広範囲にわたることもあり、委員会として一致した決断を下し難いことが分かりました。建築業者は私たちの教会の正面、また台所について工事すべきか早く決断を下すように催促し、その一方、委託した業者のこれまでの仕事について懸念する声も委員の中から出ました。工事内容について極めて重大な問題はないとしても、業者から届いた請求書には詳しい明細が書かれておらず、私たちは業者に詳細を報告するよう求めております。これらの事情を鑑みて、委員会としては現在の業者への委託を打ち切ることを決定しました。◆現在の私たちの目標は、(1) 工期1に属する残りの工事を一刻も早く終わらせること。この中には屋根・正面タイルの修理、また非常口の標識並びに非常灯の設置が含まれます。(2) 建築法に違反している箇所を直すこと、の2つです。◆最近、市消防局の検査官がJAUCを訪れ、現在のままでは教会の台所は「商業用キッチン」と分類されると知らされました。私たちがフライパンを用い

て揚げ物・炒め物をする場合は新型の消火システムを設置しなければならなくなります。現在受け取っている費用見積もりは1万2千ドルですが、別の見積もりも求めています。この消化システムを設置しない場合、教会の台所は「付随的キッチン」との扱いとなり、フライパンを使つての調理は出来なくなる上(ただしスープを温めたりオープンは使えます)、2週間ごとに消防局の検査を受けなくてはならなくなります。◆また、最近市の建築局からも検査官がJAUCに来て、「運営証明書」を年次登録日を支払った上で取得しなければならないと通知しました。ただしこの証明書は過去に登録されている可能性がありますので、現在記録を調べているところです。

## ◇子供夏期キャンプのご案内◇

SMJ (Special Ministry to the Japanese)主催の「小中学生ディスカバリーキャンプ」が今年も7月10日から22日までシェルター島(ロングアイランド)で行なわれます。キリストの愛を土台とするこのキャンプは今回で27回目、プログラムやカウンセラーとの交流を通じて子供たちがキリストの愛に触れる場所として大いに用いられています。費用は子供1人1300ドル。詳しい情報を掲載したチラシが教会にありますので、お子様のおられるご家庭へお渡し下さい。ディレクターは吉松純先生です。

## ◇東日本大震災被災者のために◇

**鈴木牧師から:** 日本が直面している未曾有の大災害を前にして、米国の多くの教会や教団が日本の復興と被災者の救援のための基金募金に力を注いでいます。日米合同教会の理事会は先週の日曜日(13日)の午後緊急理事会を開き、教会が属している二つの教団、合同メソジスト教会と米国改革派教会の救済局を通して日本キリスト教団と日本教会協議会に献金することを決定しました。ここに送られる救援金は被災者の救済に使われます。◆私たちの募金は一回だけのものではなく、これからも長い期間続けていく必要があるものであることをここで強調したいと思います。被災の規模の大きさを前にして、私たちは祈りつつその覚悟を決める必要があります。小切手はJAUC宛とし、はっきりと災害救済と明記して頂ければ幸いです。なお募金に参加して下さった方々のお名前は月報に記載させていただきます。

## ◇大震災関連のニュース◇

**■JAUC関係者の無事** 今回の大震災で大きな被害を受けた仙台市には佐藤舞子姉のご両親がおられます。ご無事とのことですが、震災後ガスや電気が不通となったため、一時避難所に身を寄せられたそうです。また鈴木智子姉は、仙台におられるご家族を訪問するために上野を新幹線で出られたところで地震に

# 日米合同教会月報69巻2011年4月号

遭われました。幸いご家族ともご無事です。その他、JAUCメンバー・関係者は現在のところ皆様無事の模様です。

■被災者のための献金 現在、4月3日現在JAUCに寄せられた震災被災者のための献金は\$8,091ドルです。4月末に一時集計し合同メソジスト・米国改革派両教団の救済局に送付する予定です。復興のための作業は長期にわたると予想されますので、その後も当面献金を募り続けます。是非ご協力下さい。

■教会でのチャリティーコンサート 3月26日午後4時から地震被災者のためのチャリティーコンサートがJAUCで開催され、100人以上の方が来られました。会では相田尚子姉(ピアノ)、田中友樹子姉(同)、熊田法子姉(オルガン)等が演奏されたほか、ココロゴスペルクワイヤ、またケニー・スミス師のピース&セレニティミニストリーズによる力強い賛美の熱唱があり、参加者一同励まされました。このコンサートで1655ドル25セントの献金が寄せられ、さらに婦人会のメンバーが作られたお握りの販売により186ドルの売り上げがありました。これらの寄付はジャパン・ソサエティを通じて被災者の救援活動に用いられます。

■日曜学校も協力 4月10日午後、ダウタウンの聖マークス・イン・パウリー教会において震災孤児のためのチャリティーイベントが「NYママの会」の主催で開催されることになりました。JAUCの日曜学校の先生・子供たちも参加する予定です。

■パーク教会監督からのメッセージ 3月20日の礼拝に合同メソジスト教会のジェレマイア・パーク監督が来られ、今回の地震に関して慰めのメッセージを述べて下さいました。「皆さんは一人ではありません。このNYにあるメソジスト教会のメンバー全員があなたと連帯しています。神様は私たちと共におられ、守って下さいます」。先生は3月11日はハイチを訪問中で、日本での地震のニュースを聞き、昨年ハイチ大地震を生き延びた信徒の方々と共に直ちにその場で日本のために祈られたそうです。

■国連チャペルでの祈り 3月18日夕に国連のチャペルにおいて3宗教(キリスト教・仏教・神道)合同の祈りの礼拝が持たれ、鈴木有郷先生が日系キリスト教会を代表してメッセージを述べられました。JAUCメンバー数名も礼拝に出席しました。

■佐藤彰牧師が避難中 2006年の第1回ファミリーキャンプで講師をされた佐藤彰先生の教会(福島第一聖書バプテスト教会)が原発に近いため閉鎖され、先生も信徒の方々も他県へ避難中です。お祈り下さい。先生が書かれている「避難生活レポート」が同教会のサイトに掲載されています(www.f1church.com)。大変心を打たれる深い内容ですので、是非ご覧下さい。

## ◇お知らせ◇

■桑山姉の帰天 長年JAUCのメンバーであった桑山あや姉が3月21日に帰天されました。桑山姉は教会に来られていた頃に

は聖歌隊や受付係として熱心に奉仕して下さいました。メモリアルサービスの予定はまだ未定です。

■レントのスケジュール 4月13日まで毎週水曜日、鈴木有郷先生によるレントの学びがJAUCの社交室で持たれています。時刻は午後7時より8時半まで、テーマは「十字架上の七つの言葉」です。主イエスが十字架の上で語られた7つの言葉の意味について、それが私たち自身とどのような関わりがあるのか深く学んで行きます。◆また、洗足木曜日礼拝が4月21日の午後7時よりJAUC礼拝堂で持たれます。良い金曜日礼拝は4月22日午後7時からです。◆今年もイースターサンデーには、主のご復活をお祝いする礼拝の後、ポットラックのランチを持ちます。社交室にサインアップシートがありますのでご記入下さい。

■春の大掃除 4月16日・5月14日に教会の大掃除を行ないます。午前・午後の2シフトを組む予定ですので、ご協力下さい。

■リーダーシップリトリート 当初4月に予定されていたリーダーシップリトリートは5月21日に延期されました。プログラムは午前10時より午後3時まで持たれます。コーディネーターは吉田ジェリ姉です。教会リーダーシップのあり方、方向性について考えるワークショップを持ちますので、ふるってご参加下さい。

■アルファコースまもなく再開 「キリスト教は初めて」という方のための入門コース「アルファ」が5月4日から再び始まります。

■熊田法子姉ミュージカルの出演 熊田法子姉がピース&セレニティミニストリーズの演じる受難劇ミュージカル「復活の栄光」に出演されます。日時は4月16日午後5時、チェルシーのPS11(ウィリアム・ハリススクール)です。

## ◇祈りのリクエスト◇

東日本大震災の被災者の方々、並びに次の方々を祈りに覚えて下さい。ロベルト・アセバード(アセバード兄のお父様)、バーバラ・アレキサンダー師、浅井ひさよ、伊藤ゆう子、岩佐敏夫、奥田久子、小口愛(ウェストミンスター教会)、神塚アーサー師・リリー姉、神崎ヨネ、桑田ハリー、ゴーマン美智子、野間美奈子、松本二三子、向井ジョージ(ベイサイド在住)、向井ジョージ(オネオンタ)、保坂田鶴子、山崎あきら(堀内姉のお兄様)、湯沢キミ諸兄姉

## スモール・グループ

スモールグループは教会員の霊的成長のための教会プログラムです(自由参加)。少人数での交わり(フェロシップ)を通して、クリスチャンとして実生活でどう生きるかなどを考え、互いに支えあい高めあうことを目的とします。時刻は変更されることがありますので、各グループの担当者または月報を確認下さい。

- |                       |          |          |
|-----------------------|----------|----------|
| SG 1. 女性信徒の学び会(ハインガル) | 第2、4土1時  | 園田姉宅     |
| SG 2. 日本人女性の会         | 第2火11時   | 日下部姉宅    |
| SG 3. 男性信徒の学び会(ハインガル) | 第2、4日9時半 | 教会(日下部兄) |
| SG 4. 日本語での学び会        | 第2日2時    | 教会(春日姉)  |
| SG 5. 日本語「葡萄の木」の会     | 第4日2時    | 教会(小林姉)  |
| SG 6. 日本語「証しと祈りの会」    | 毎月最終金夜7時 | 寒河江兄宅    |
| SG 7. 英語での学びの会        | 毎月第3日曜   | 教会(吉田夫妻) |

# 日米合同教会月報69巻2011年4月号

---

